



# 1 玉村町の景観特性

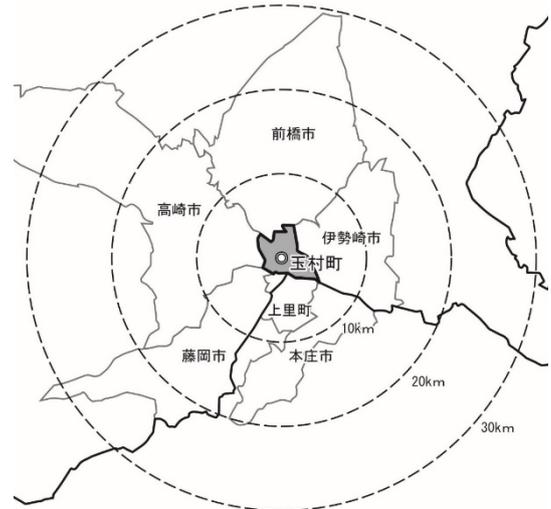
## 1-1 玉村町の概況

### (1) 位置条件

○玉村町は、群馬県南部に位置し、前橋市・高崎市・伊勢崎市・藤岡市の4市に囲まれ、前橋市・高崎市から約10km、首都圏から100km圏内に位置しています。

○町の西端に関越自動車道、北側に北関東自動車道が配置され、町中央部を県道綿貫篠塚線(旧国道354号(旧日光例幣使道))が、また、平成26年2月に高崎玉村スマートインターチェンジが整備され、平成26年8月には東毛広域幹線道路(国道354号)が東西に整備されるなど、利便性の高い道路交通条件を有しています。

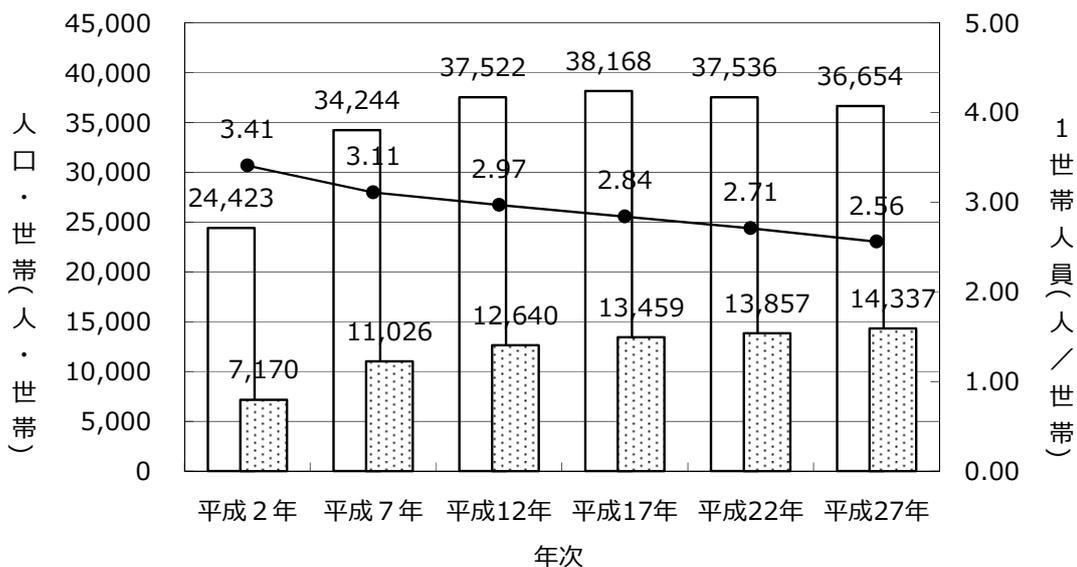
図1-1 玉村町の位置



### (2) 人口・世帯

○平成27年国勢調査による人口は36,654人となっており、平成17年をピークに、減少傾向で推移している一方、世帯数は、伸びがやや鈍化しているものの、一貫して増加しています。

図1-2 人口・世帯の推移



□人口 □世帯数 ●1世帯人員

資料：国勢調査

### (3) 地形・地勢

○地勢は、北西から南東にかけてなだらかに傾斜しているものの、ほぼ平坦な地形となっており、主な幹線道路の沿道を中心に市街地や集落が形成され、その周囲にまとまりのある優良な農地が広がっています。

○利根川、烏川が流れ、両河川は町の南東部で合流しています。また、利根川に合流する藤川、烏川に合流する滝川も町内を流れています。

### (4) 歴史・文化

#### ■原始・古代

○河川に沿った地域を中心に約200基もの古墳が確認されていることから、古墳文化が花開いていたことがわかります。

○奈良時代には都と陸奥国を結ぶ幹線道路である東山道とうさんどうの道のあとが発掘調査により発見されており、また、平安時代には玉村保むつのくに・玉村御厨たまむらのほ たまむらのみくりやが存在したことが知られているほか、律令制の地方展開に伴う条里制の区画も確認されています。

#### ■中世

○鎌倉時代になると、玉村御厨を開発した在地領主・玉村氏が上野国守護である安達氏の家臣として活躍し、室町幕府が開かれると、関東管領である上杉氏が上野国の守護となり、広く関東の実権を握りました。

○関東で戦乱が続き、上杉氏の勢力が弱まる戦国時代には、上野国は北条氏康・上杉謙信・武田信玄の勢力争いの舞台となり、この三大勢力の境目にあった現在の玉村町の地域は、激しい戦いに巻き込まれていきました。

#### ■近世

○江戸幕府が開かれると、代官・伊奈備前守忠次い な びぜんのかみただつぐが戦火で荒廃したこの地方の開発にあたり天狗岩用水を延長して滝川用水を開き、新田（上新田・下新田）が開発され、玉村宿がつくられました。また、徳川家康をまつる日光東照宮の春の大祭に、京都の朝廷から幣帛へいはくを奉納するために派遣される勅使である日光例幣使の一行が通るために日光例幣使道が整備され、玉村宿の他に五料宿が置かれました。

○当時の玉村宿には、本陣、問屋場とともに約50軒の旅籠屋はたごやがあり、この地方の中心として栄えました。また、五料宿には、関所、渡船場があり、交通の要衝としての役割を果たすとともに、この地域には五料河岸・新河岸・川井河岸という三つの河岸が置かれ、木材の輸送や米などの積出し拠点として賑わいました。

#### ■近現代

○明治4年の廃藩置県で、現在の玉村町の各地区は群馬県の管下となり、明治22年の町村制施行により、玉村町・芝根村・上陽村・滝川村が誕生しました。また、昭和28年に施行された町村合併促進法により、昭和30年に玉村町と芝根村が合併し、さらに昭和32年に玉村町と上陽村及び群南村の一部（旧滝川村の一部）が合併し、今日に至っています。

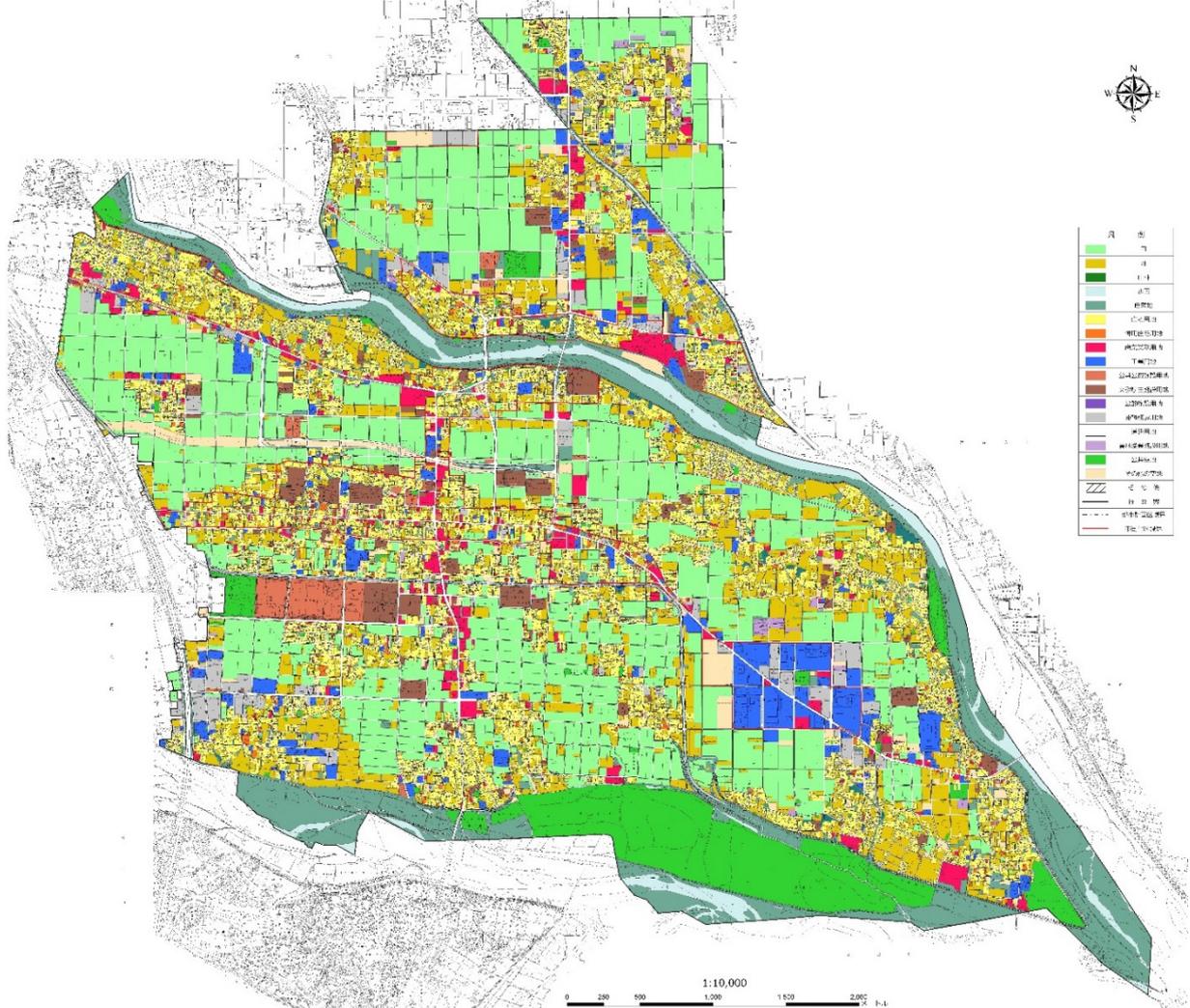
○現在の玉村町は、前橋市、高崎市などに近接する立地条件から各都市への通勤圏である住宅都市として、また、県立女子大学が立地する学園都市として、発展を続けています。



## (5) 土地利用

- 玉村町の土地利用の構成をみると、農地が町全体の3分の1を占めており、これらを含めた自然的土地利用が過半に達するなど、自然的土地利用に特化しています。
- 市街化を促進する区域である市街化区域は、都市的土地利用の比率が高くなっているものの、町全体の住宅用地434.8haのうち、市街化を抑制する区域である市街化調整区域に318.4ha、73.2%が分布し、特に県道綿貫篠塚線(旧国道354号)、主要地方道高崎伊勢崎線、主要地方道前橋玉村線の沿道を中心に、広く都市的土地利用が進んでいることが特徴となっています。

図1-3 土地利用現況図(平成23年)



資料：都市計画基礎調査

## (6) 産業

- 農業は、農家数が減少傾向にあり、特に販売農家の落ち込みが著しい状況にあります。
- 工業(製造業)は、事業所数が減少しているものの、従業者数は近年増加傾向で推移しており、これに伴って製造品出荷額は堅調に増加しています。
- 商業(小売業)は、商店数、従業者数、商品販売額、売場面積のいずれも減少傾向で推移しています。

## 1-2 玉村町の景観資源

### (1) 景観類型の区分

- 「景観」は、様々な「眺めの対象」の総体であり、これら景観を構成する個々の「眺めの対象」を「景観資源」と位置づけます。
- 景観特性を把握するための前提として、これら景観資源を「性質」と「形態」から次のように類型・整理します。

表1-1 景観資源の分類(性質別)

性質による分類	内容
自然的景観資源	・周囲の山並み、段丘などの地形や河川、森林やまとまりのある緑地、農地など、町の成り立ちの基本的な骨格を形づくるものであり、地域の良好な景観を創り出す基盤となっているもの
都市的景観資源	・道路、公共施設や住宅地、商店街などの都市的な生活を支える都市施設や土地利用といった、地域の現在の暮らし方を反映するもの
歴史的景観資源	・街道や歴史的建造物、社寺などの長い間に醸成されてきた地域固有の歴史や文化、風土を伝えるもの

表1-2 景観資源の分類(形態別)

形態による分類	内容
点的景観資源	・周囲と際だった形態的な特性を持ち、その場所を象徴的に伝えるもの、目印となるもの
軸的景観資源	・境界となって景観を視覚的に限定するもの、景観の骨格を形成するもの、動いてみることで、連続的に景観を認識するもの
面的景観資源	・同質性や類似性からまとまりのあるもの、周囲との異質性から際だった特性をもっているまとまり
眺望景観資源	・点、軸、面的景観要素を重層的に認識できるもの

表1-3 景観資源の分類と対応する要素の整理

分類		性質による分類		
		自然的資源	都市的資源	歴史的資源
形態による分類	点的資源	山(古墳)	橋りょう 公共施設 公園 レクリエーション施設	歴史的建造物 遺跡・史跡 行事・風物
	軸的資源	斜面緑地 河川・水路など 並木	道路 商店街	旧街道
	面的資源	農地 森林・緑地 集落	住宅地 工業地	歴史的街区
	眺望景観資源	眺望点・眺望の対象		



## (2) 類型別景観資源の整理

玉村町の景観資源は、性質及び形態から次のように類型・整理されます。

### ① 自然的景観資源

区分		景観資源
点的景観資源	山(古墳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軍配山古墳</li> <li>・梨ノ木山古墳</li> </ul>
軸的景観資源	斜面緑地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利根川の河畔林</li> <li>・烏川の河畔林</li> </ul>
	河川・水路など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利根川</li> <li>・烏川</li> <li>・滝川</li> <li>・藤川</li> </ul>
	並木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜並木(県立女子大、上之手公民館、滝川)</li> <li>・東毛広域幹線道路(国道 354 号)沿道の河津桜並木</li> <li>・イチョウ並木(玉村ゴルフ場)</li> </ul>
面的景観資源	農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田園風景(麦畑、山並みを背景とした田園風景)</li> </ul>
	森林・緑地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスモス畑(各地)</li> <li>・岩倉自然公園(水辺の森公園)</li> <li>・玉村八幡宮の社寺林</li> <li>・南玉住吉神社の社寺林</li> <li>・火雷神社の社寺林</li> <li>・樋越神明宮の社寺林</li> </ul>
	集落	—

※太字・下線は住民アンケート調査で回答の多かった景観資源

※町域を越えた景観対象は、眺望景観資源として整理



浅間山と烏川



イチョウ並木





## ②都市的景観資源

区分		景観資源
点的景観資源	橋りょう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉村大橋</li> <li>・伊勢玉大橋</li> <li>・岩倉橋</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福島橋</li> <li>・五料橋</li> </ul>
	公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化センター(公民館、図書館、歴史資料館)</li> <li>・道の駅「玉村宿」</li> <li>・玉村町役場</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給水塔</li> <li>・県立女子大学</li> </ul>
	公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合運動公園</li> <li>・北部公園(バラ園)</li> <li>・烏川河川敷総合レクリエーション基地公園</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東部スポーツ広場公園(桜)</li> <li>・岩倉自然公園(水辺の森公園)</li> </ul>
	レクリエーション施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉村ゴルフ場</li> <li>・角湊キャンプ場</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新玉村ゴルフ場</li> </ul>
軸的景観資源	道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関越自動車道・高崎玉村スマートインターチェンジ</li> <li>・東毛広域幹線道路(国道 354 号)</li> <li>・県道綿貫篠塚線(旧国道 354 号)</li> <li>・主要地方道前橋玉村線</li> <li>・主要地方道高崎伊勢崎線</li> <li>・主要地方道藤岡大胡線</li> <li>・サイクリングロード</li> </ul>
	商店街	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要地方道藤岡大胡線沿道の商店街(町役場周辺)</li> </ul>
面的景観資源	住宅地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化センター周辺地区</li> </ul>
	工業地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東部工業団地</li> <li>・北部工業団地</li> </ul>

※太字・下線は住民アンケート調査で回答の多かった景観資源

※町域を越えた景観対象は、眺望景観資源として整理



道の駅 玉村宿



北部公園

図1-5 都市的景観資源図



凡例

点的景観資源		軸的景観資源		面的景観資源	
○	橋りょう	—○—	高速道路	□	住宅地
□	公共施設	—	国道	□	工業地
□	公園・レクリエーション施設	—	主要地方道・県道		
		—	サイクリングロード		
		—	商店街		



### ③歴史的景観資源

区分		景観資源	
点的景観資源	歴史的建造物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>玉村八幡宮</u></li> <li>・樋越神明宮</li> <li>・上新田稲荷神社</li> <li>・飯玉神社</li> <li>・東林寺</li> <li>・養命寺</li> <li>・慈恩寺</li> <li>・金蔵寺</li> <li>・観照寺</li> <li>・称念寺</li> <li>・宝蔵寺</li> <li>・稲荷神社</li> <li>・観音寺</li> <li>・法蓮寺</li> <li>・八千矛神社</li> <li>・本泉寺</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火雷神社</li> <li>・角淵八幡宮</li> <li>・光琳寺</li> <li>・花台寺</li> <li>・重田家住宅</li> <li>・貫前神社</li> <li>・普門寺</li> <li>・住吉神社</li> <li>・西光寺</li> <li>・神楽寺</li> <li>・嚮義堂</li> <li>・満福寺</li> <li>・神明宮</li> <li>・西八幡宮</li> <li>・東栄寺</li> </ul>
	遺跡・史跡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梨ノ木山古墳</li> <li>・五料関所跡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>軍配山古墳</u></li> <li>・川井城跡</li> </ul>
	行事・風物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲荷神社獅子舞(上新田稲荷神社)</li> <li>・すみつけ祭(上福島)</li> <li>・玉村八幡宮例大祭(玉村八幡宮)</li> <li>・角淵祇園祭(角淵)</li> <li>・悪魔祓い(藤川)</li> <li>・悪魔払い(飯塚)</li> <li>・祇園祭(県道綿貫篠塚線(旧国道 354 号)沿道)</li> <li>・横樽音頭(南玉住吉神社)</li> <li>・麦蒔御神事(火雷神社)</li> <li>・水神祭(五料)</li> <li>・春鋤祭(樋越神明宮)</li> </ul>	
軸的景観資源	旧街道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>旧日光例幣使道</u></li> </ul>	
面的景観資源	歴史的街区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>旧玉村宿</u></li> </ul>	

※太字・下線は住民アンケート調査で回答の多かった景観資源

※町域を越えた景観対象は、眺望景観資源として整理

図1-6 歴史的景観資源図



凡例

点的景観資源		軸的景観資源		面的景観資源	
	歴史的建造物		旧街道		歴史的街区
	遺跡・史跡				
	行事・風物				



玉村八幡宮



軍配山古墳



### ④眺望景観資源

区分	景観資源(<> 内は眺望点)
眺望景観資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤城山への眺望 &lt;玉村大橋、福島橋、北部公園、飯塚&gt;</li> <li>・利根川 &lt;玉村大橋、福島橋、伊勢玉大橋、五料橋&gt;</li> <li>・烏川 &lt;岩倉橋&gt;                      ・上毛三山 &lt;上陽&gt;</li> <li>・岩倉自然公園(水辺の森公園) &lt;岩倉橋&gt;</li> <li>・浅間山&lt;東毛広域幹線道路(国道354号)&gt;      ・榛名山</li> <li>・周囲の山並み &lt;総合運動公園、道の駅玉村宿など&gt;</li> <li>・河津桜 &lt;東毛広域幹線道路(国道354号)&gt;</li> </ul>

※太字・下線は住民アンケート調査で回答の多かった景観資源

※眺望点と眺望の対象の組み合わせは、住民アンケート調査で回答のあった場合、もしくは、策定委員会で意見があった場合のみ表記

※町域を越えた景観対象は、眺望景観資源として整理

図1-7 眺望景観資源図



## 1-3 玉村町の景観特性

### (1) 景観の骨格

#### ■景観にアクセントを加える河川の景観

玉村町はほぼ平坦で、地形的には単調といえますが、利根川、烏川、滝川などの河川が軸的な景観資源としてアクセントを加え、景観に変化を与えています。

これらの河川は、水の豊かさを強く印象づけるだけでなく、河畔の斜面地の緑と一体となって自然の豊かさを象徴する景観を形づくっています。



利根川と河畔林

#### ■都市の活力を表す道路の景観

東毛広域幹線道路(国道354号)や主要地方道藤岡大胡線、県道綿貫篠塚線(旧国道354号)などの幹線道路は、人や物が行き交う交通の基盤であり、人々の活動を支えています。

特に、国道354号は、住民アンケート調査結果からも、周囲の田園風景や山並みを眺望する場として、また、道路自体が景観の対象として評価されています。

これら道路沿道の景観は、来訪者にも玉村町の印象を植え付ける上で大きな役割が期待されることから、玉村町の景観の骨格と位置づけることができます。



東毛広域幹線道路(国道 354 号)



## (2) 景観の構成

### ■ふるさとを印象づける田園風景

玉村町は町域の86.3%が市街化調整区域であり、その全域が農業振興地域となっていることから、まとまりのある農地が広範に広がる田園風景に特徴があります。

また、水稻・小麦の二毛作を中心とした農業が行われていることに特徴があり、緑や黄金色など季節とともに彩りを変え、また、緑や冠雪した遠景の山並みと相まって、ふるさとを印象づける景観を構成しています。



斎田付近の田園風景

### ■人々の生活が息づく市街地・集落の景観

かつて日光例幣使道の宿場町として栄え、これらが基盤となって現在の市街地が形成されてきた玉村町は、県道綿貫篠塚線(旧国道354号)をはじめとする幹線道路を軸に市街地や集落が形成されています。

特に、町域の多くを占める市街化調整区域においても、住宅用地をはじめとする宅地が広く分布しており、良好な田園風景との調和が損なわれていくことが懸念されます。

また、主要地方道藤岡大胡線の沿道を中心に商業地が形成されていますが、必ずしも魅力的な景観とはいえない状況にあります。



中心市街地(町役場付近)

### ■玉村の歴史を語る街並みや遺跡

日光例幣使道の宿場町として整備された玉村宿が町内に位置し、商家建築物が残されるなど、往時の面影を残しています。

また、軍配山古墳や梨ノ木山古墳は、平坦な地形にあって小高い丘を形成しており、地域のシンボルともいえる景観を形成しています。



旧玉村宿の街並み

### (3) 眺望の特徴

#### ■田園風景の背景となる周囲の山並みへの眺望

平坦な地形にまとまりのある農地が広がっているため、周囲への眺望に優れていることが大きな特徴となっています。

特に、地域のシンボルである赤城山、榛名山、妙義山からなる上毛三山や浅間山などの山並みへの眺望は、住民アンケートにおいても評価が高く、好きな景観、自慢できる景観として多くの住民に親しまれています。

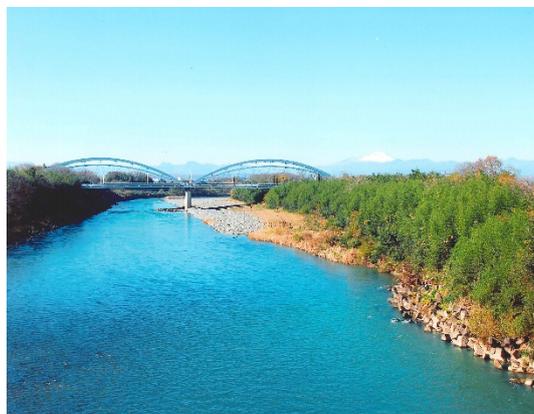


農地と遠景の赤城山

#### ■見通しのきく河川の眺望

利根川や烏川などの河川は、それ自体が良好な自然的景観資源であるだけでなく、開けた空間として見通しがきくため、その遠景に周囲の山並みを見ることが出来る優れた眺望点となっています。

特に、西側に榛名山や妙義山、浅間山などが位置するため、主に西(北西)から東へ流下する玉村町の河川は、その軸方向にこれらの山並みを見通せる構成となっていることが特徴といえます。



利根川と浅間山

また、これら河川の橋りょうは、景観を眺める重要な視点場となっています。



## 1-4 景観の阻害要因

### ■眺望や周辺への配慮が不足した屋外広告物

主要な幹線道路の沿道などに設置される屋外広告物は、その大きさや色彩によっては良好な景観を阻害する要因となるものであり、特に、眺望景観に優れた玉村町においては、これらの見通しを損ねる要因となっています。

特に東毛広域幹線道路(国道354号)は、広がりのある農地に新設された道路であるため、平坦な地形に大型の屋外広告物が設置された場合は、景観を損ねる要因となることが懸念されます。

### ■色彩や大きさ・高さが目立ちやすい自家用広告物

屋外広告物条例に基づく制限は、主に貸し看板といわれる屋外広告物が対象となり、店舗などの施設や自家敷地に設置される看板類の制限は相対的に緩やかになっています。

これら看板類は、主に来訪者をターゲットとしているため、目立ちやすい華やかな色彩や大きさ・高さとなるケースが多くなっています。しかしながら、目立ちやすさという視点から、景観がますます乱雑になる悪循環に陥る可能性があります。



町役場付近



主要地方道藤岡大胡線沿道

### ■活力の低下を招く空き店舗など

人口減少や少子・高齢化、購買活動の変化などに伴う来訪者の減少に伴い、既存の個人商店などを中心に空き店舗が目立ちはじめています。これらは、景観を損ねるおそれがあるだけでなく、町の活気や賑わいを低下させる要因となっています。



### ■ふるさとの田園風景を損ねる構造物

玉村町の農業は、農家数の減少、土地持ち非農家の増加のほか、休耕地も生じており、赤城山をはじめとする周囲の山並みへの眺望の近・中景を構成する田園風景も変化しつつあります。

また、平坦で見通しのきく田園風景の中に、携帯電話の基地局など、高さの高い構造物の設置も進んでおり、眺望景観の魅力を低下させることが懸念されます。



目立ちやすい  
携帯電話の基地局の構造物

### ■歴史的な街並みとの調和が不足した建築物

かつて日光例幣使道の宿場町として栄えた旧玉村宿には、一定の商家建築物が残され、往時の面影を偲ばせていますが、生活スタイルの変化や建築工法・材料の多様化とともに、多くは現代風の建築物に置き換わり、歴史的な街区の風情も損なわれつつあります。



現代的な建築物が  
増えつつある旧玉村宿

## 1-5 景観に対する住民の考え方・意向

---

本計画の策定にあたり、住民の景観に対する現状認識や景観の将来方向、行為制限に関する意向・考え方などを把握するため、アンケート調査を実施しました。

### (1) 調査の実施概要

- 実施対象：町内在住の20歳以上の住民1,000人
- 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- 調査方法：郵送による配布・回収
- 調査期間：平成28年11月10日～11月21日(ただし、平成28年12月23日回収分まで集計)
- 調査内容：①回答者の属性  
②景観に対する現状認識  
③景観の将来方向  
④行為制限に関する意向・考え
- 回収結果

配布数	(a)	1,000 票
回収数	(b)	302 票
回収率	(b)/(a)	30.2 %
有効回答数	(c)	302 票
有効回答率	(c)/(a)	30.2 %

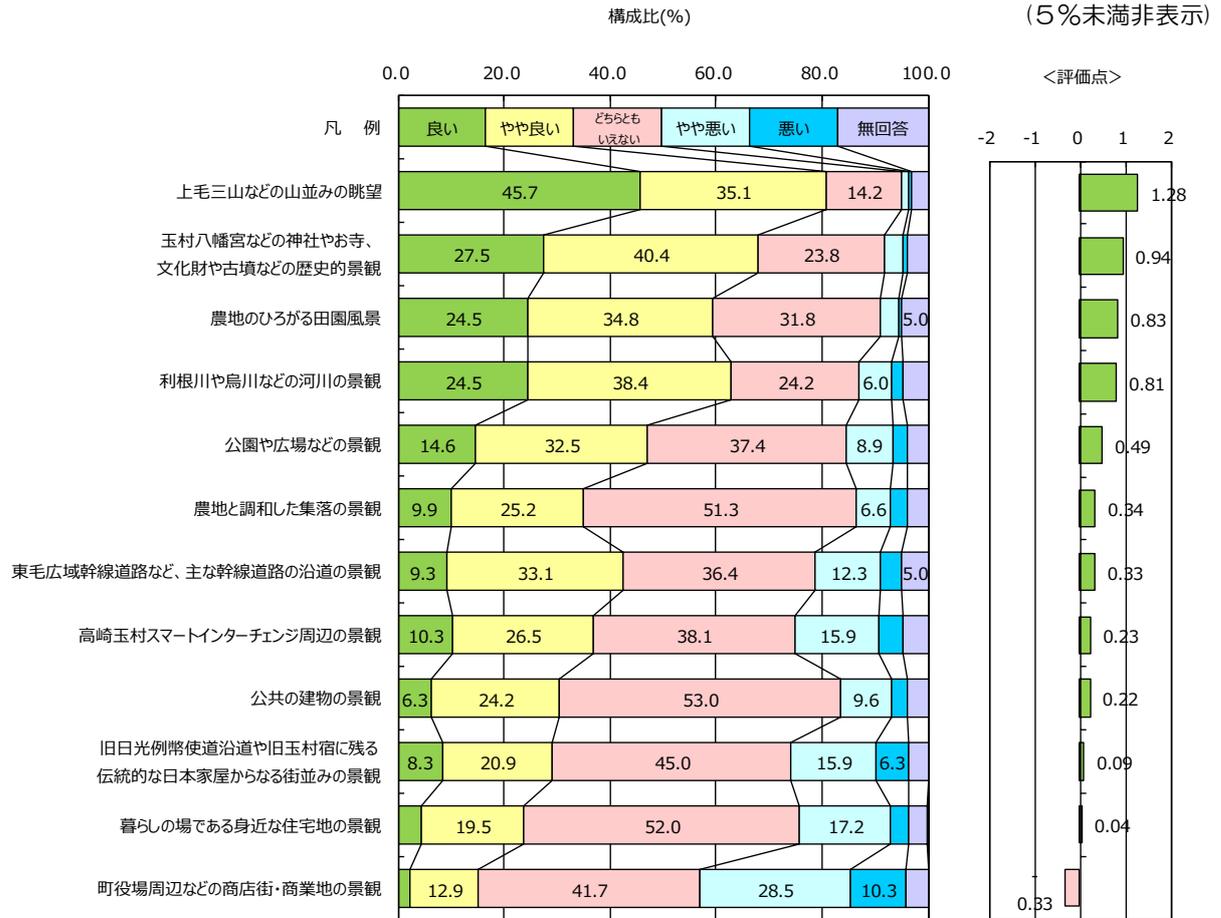
### (2) 調査結果にみる住民の考え方・意向

#### ○「誇りや愛着」の感じられる「河川」や「田園風景」を介した「赤城山」などの「山・山並み」の眺望

住民の景観に対する評価は、山並みや田園風景、河川などの自然的景観を中心に満足度が高くなっており、中でも利根川などの「河川」や「田園風景」を介して眺望できる「赤城山」などの周囲の「山・山並み」に対して、「好きな景観・自慢できる景観」の対象として多くの回答が寄せられています。特に、「上毛三山などの山並みの眺望」は全ての世代、地域で最も評価が高く、これらの眺望景観は、多くの住民が共有する玉村町の重要な景観資源といえます。



図1-9 景観に対する評価

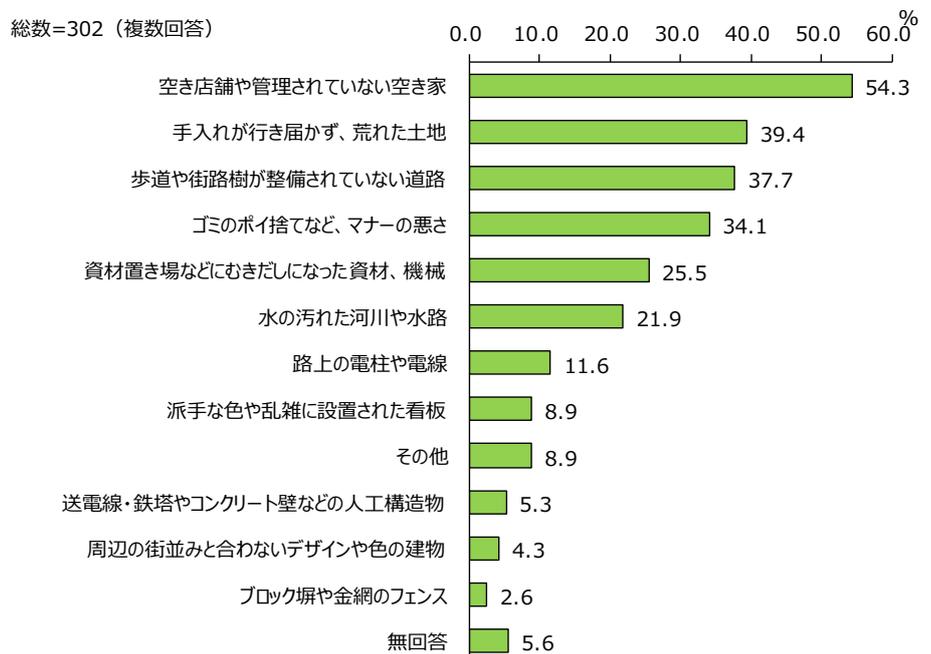


○阻害要因は「空き家・空店舗の増加」「荒れた土地」「街路樹などが整備されていない道路」

景観を阻害している要因には、「空き店舗や管理されていない空き家」が全ての地域で最も比率が高いほか、「手入れが行き届かず、荒れた土地」など、「誇りや愛着」のあるふるさとの自然的景観が、手入れが行き届かず、放置されている状況によって、その魅力を低下させていると考えていることがうかがわれます。

景観は「目に見える環境」といわれることから、単に美しさといった尺度での景観づくりでなく、「誇りや愛着」を基盤としたまちづくりの視点からの取り組みも、同時に求められるものと考えられます。

図1-10 景観の阻害要因



## ○「好き・自慢できる」と感じている自然的景観を主体とした眺望

好きな景観、自慢できる景観としての典型例は、「玉村大橋から見た利根川」「玉村大橋から見た赤城山」「福島橋から見た利根川」「岩倉橋から見た烏川」「五料橋から見た利根川」「福島橋から見た赤城山」などがあげられます。自然の豊かさや多彩さを表すこれら自然的景観に強い指向性があり、特に河川や田園風景とその遠景となる山並みへの眺望を特徴としてあげられています。

一方、歴史的な景観について、満足度としては「玉村八幡宮などの神社やお寺、文化財や古墳などの歴史的景観」への評価が比較的高いものの、「好き・自慢できる景観」としての回答は少なくなっています。このことから、歴史的景観については、景観資源としての価値は認めているものの、「玉村らしい景観」として多くの住民が共有するには至っていないと考えられます。

また、景観を眺める場所としての「視点」については、「橋りょう」や「道路」の果たす役割が大きくなっていますが、「橋りょう」は、河川の軸方向への見通しに優れていること、道路のうち特に回答の多かった東毛広域幹線道路(国道354号)は、沿道への建築物立地が現時点で進んでおらず、麦畑などの田園風景が続く景観が眺められることを要因に回答が多くなっていると考えられます。

このため、眺望点としての「橋りょう」や「道路」そのものの魅力を高めることや、見通しのきく眺望を保全していくことが重要と考えられます。

表1-4 好きな景観、自慢できる景観

大分類		中分類		主な回答( ( ) 内は回答数)
区分	回答数	区分	回答数	
自然的景観	300	山	79	赤城山(46)、浅間山(18)
		山並み	37	上毛三山(22)
		田園風景	43	田園風景(33)、麦畑(3)
		河川	65	利根川(43)、烏川(10)
		森林・緑地	47	桜並木(13)、バラ園(4)、玉村ゴルフ場のイチヨウ並木(1)
		公園など	12	北部公園(4)、岩倉自然公園(水辺の森公園)(3)
		生物	6	コハクチョウ(2)、カモやシラサギ(1)
		その他	11	日の出(5)、夕日(3)
都市的景観	50	公共施設	17	文化センター(4)、道の駅(4)
		橋りょう	4	玉村大橋(2)
		道路	9	東毛広域幹線道路(国道354号)(4)
		遊歩道など	1	サイクリングロード(1)
		市街地	5	赤城山方面の夜景(1)
		その他	14	玉村花火大会(8)、JA佐波伊勢崎たまむら(2)
歴史的景観	30	史跡など	7	軍配山古墳(3)
		社寺など	17	玉村八幡宮(15)
		歴史的な街並み	6	旧玉村宿(2)

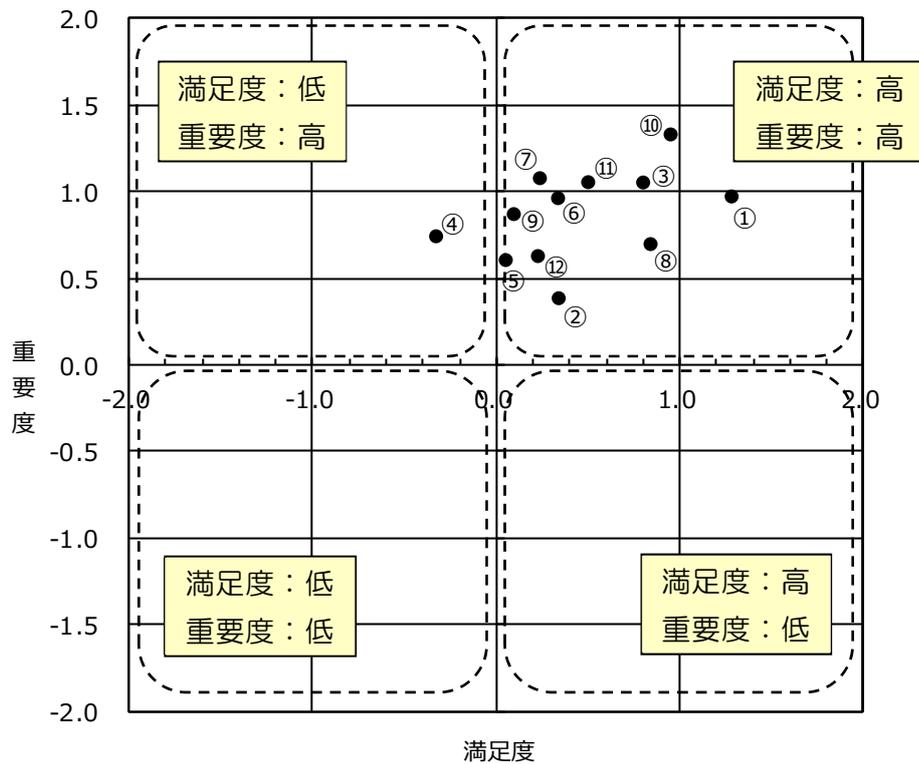


### ○景観づくりの重点度の高い旧日光例幣使道沿道などの街並みの景観

「町役場周辺などの商店街・商業地の景観」は、今後の景観づくりにおける重要度が相対的に高く、現在の満足度が唯一のマイナス評価となっていることから、その景観の魅力を高めていく取り組みが必要と考えられます。

また、「旧日光例幣使道沿道や旧玉村宿に残る伝統的な日本家屋からなる街並みの景観」は、「好き・自慢できる景観」として住民に広く共有される状況には至っていないものの、現在の満足度が高く、かつ今後の重要度も高いことから、現在の景観を維持・保全しつつ、これらを活かした景観づくりに取り組むことが必要と考えられます。

図1-11 景観の満足度と重要度の相関

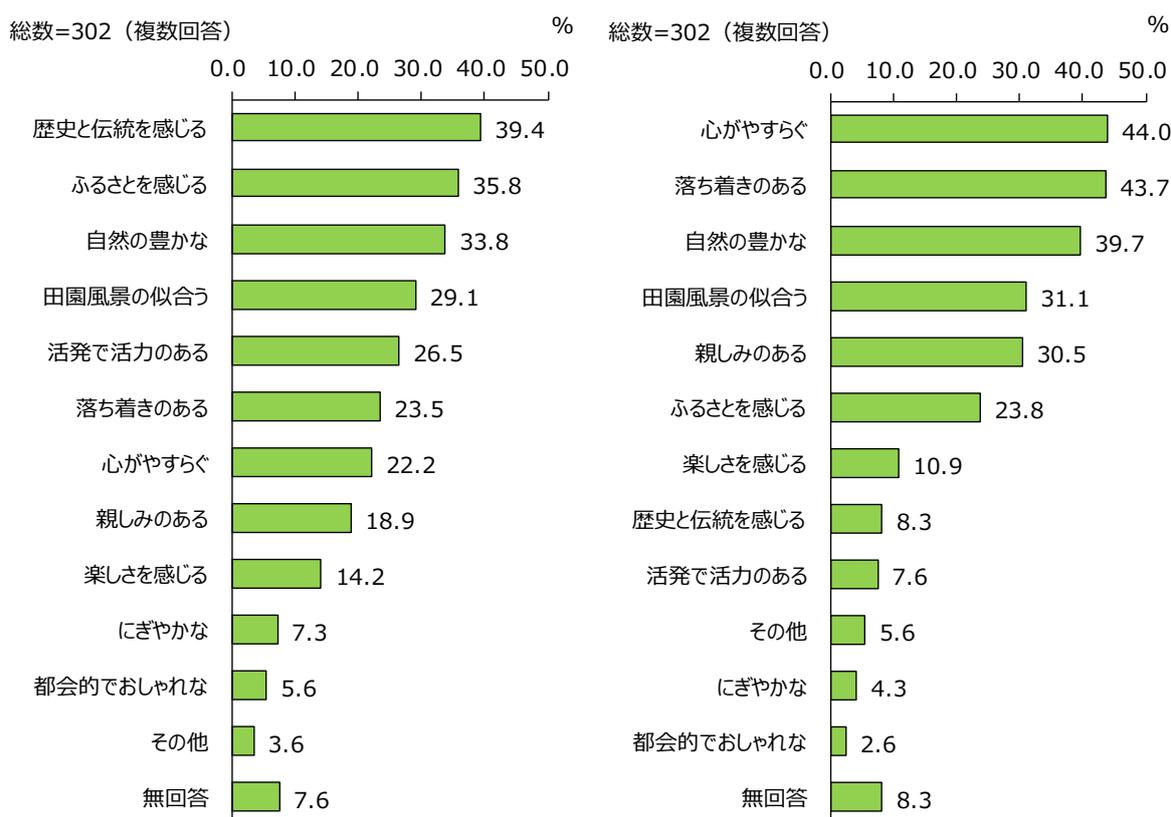


- ①上毛三山などの山並みの眺望
- ②農地と調和した集落の景観
- ③利根川や烏川などの河川の景観
- ④町役場周辺などの商店街・商業地の景観
- ⑤暮らしの場である身近な住宅地の景観
- ⑥東毛広域幹線道路(国道354号)など、主な幹線道路の沿道の景観
- ⑦高崎玉村スマートインターチェンジ周辺の景観
- ⑧農地のひろがる田園風景
- ⑨旧日光例幣使道沿道や旧玉村宿に残る伝統的な日本家屋からなる街並みの景観
- ⑩玉村八幡宮などの神社やお寺、文化財や古墳などの歴史的景観
- ⑪公園や広場などの景観
- ⑫公共の建物の景観

○「自然の豊かさ」を基盤に、町全体は「歴史と伝統を感じる景観」「ふるさとを感じる景観」、身近な景観は「落ち着いたある景観」「心がやすらぐ景観」をイメージ

景観づくりの将来イメージは、「自然豊かな」がキーワードとして第一にあげられ、これをもとに町全体については、玉村八幡宮や旧日光例幣使道などを活かした「歴史と伝統を感じる景観」、田園風景の広がる「ふるさとを感じる景観」が、居住地周辺については、身近な暮らしの場としての「落ち着いたある」や「心のやすらぎ」が指向されています。

図1-12 景観づくりの将来イメージ  
【町全体】 【居住地周辺】



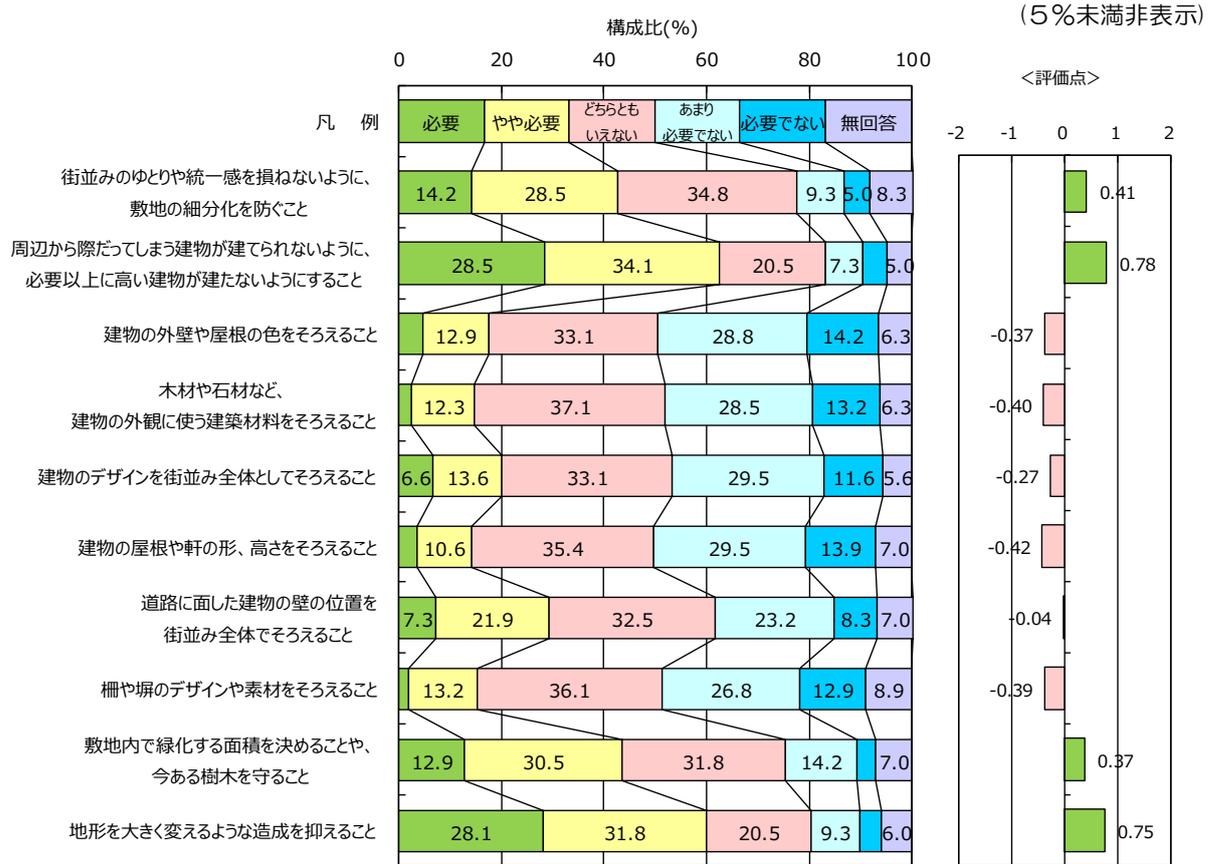
○「高さ」「土地の改変」に一定のルールが必要とする意向

景観づくりに関わる制限やルールについては、「周辺から際だってしまう高さの建物の立地を抑制すること」「地形を大きく改変すること」「敷地を細分化すること」「今ある緑を保全し、緑化すること」に対して「ルールが必要」としており、これらルールが決められた場合には、回答者の約90%が「ある程度」も含め「協力する」としています。

この結果から、住民が「必要」と考えるルールを軸としつつ、今後の景観特性や課題から必要と考えられる事項についても十分な理解と協力が得られるルールを検討することが重要になるものと考えられます。



図1-13 景観づくりに関わる制限やルール必要性



○屋外広告物に関するルールのポイントは周辺と調和を欠く「色彩・発光・規模」と「必要な場所での制限」

屋外広告物の設置などに対する考え方は、「規制の必要はない」とする回答は少なく、何らかのルールは必要と考えられている結果となりました。これら必要なルールとしては、屋外広告物そのものが「派手な色彩のもの」や「発光するもの」といった、主に周辺の景観との調和を欠き、際立ってしまうものが対象としてあげられます。

また、町全域でのルール適用ではなく、玉村町の特徴的な景観である田園風景や歴史的な街並みの残る区域などにおいて、「区域を限定して規制」すること、貸し看板など対象を限定して規制することへの回答が、自営業者や農林畜産業などの職業に多いことから、メリハリのあるルールづくりを進めることがポイントとなります。

図1-14 屋外広告物に関するルールの考え方

